

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1203 号	氏名	千葉比呂美
審査担当者	主査	山下 裕史朗	(印)
	副主査	森田 孝一郎	(印)
	副主査	恵 純 菜 昭	(印)
主論文題目：Patients With Posttraumatic Stress Disorder With Comorbid Major Depressive Disorder Require a Higher Dose of Psychotropic Drugs (うつ病を合併する PTSD 患者はより多くの向精神薬投与を必要とする)			

審査結果の要旨 (意見)

PTSD と Major depressive disorder (MDD) の併存は 51～82% で、併存例は症状が重く、機能障害も高いことが報告されている。本論文は、久留米大学神経精神科を受診した 55 名の PTSD 患者における MDD 併存患者の薬物療法に関する貴重な研究である。MDD を併存する PTSD 患者は、PTSD のみの患者と比較してタイプ 2 トラウマ (性的虐待など長期間、あるいは反復するトラウマによる) が有意に多く、年齢、PTSD 重症度も高く、治療期間も長かった。また、MDD 併存患者では、タイプにかかわらず、抗うつ薬、抗精神病薬、ベンゾジアゼピン系薬などの向精神薬使用が多く、治療もより困難であることが示された。PTSD 患者を診療する上で MDD 併存を念頭におき、適切な薬物治療を含めた包括的治療の必要性を明確にした論文であり、学位論文にふさわしいと判断する。

論文要旨

うつ病は PTSD における併存率が 51-82% と高いことが知られている。また、うつ病併存は症状の重症度や生活機能の低下と関連していることも報告されているが、薬物療法の特徴については、いまだ不明な点が多い。今回、我々は 2005 年から 2014 年にかけて久留米大学病院精神科において PTSD と診断された患者 55 名を対象にして後方視的に診療録調査を行い、うつ病併存の有無を焦点に薬物療法について検討した。解析対象とした 50 名のうち、46 名が薬物療法を受けていた。SSRI 投与は 27 名、抗精神病薬投与は 25 名、気分安定薬投与は 7 名であった。ベンゾジアゼピン (Bz) は 33 名と、約 3 分の 2 で投与を受けていた。うつ病併存患者では、type II trauma である割合が有意に高く、PTSD の重症度も高かった。また、SSRI、抗精神病薬、Bz のいずれの投与量もうつ病併存群において非併存群より多かった。Bz の投与割合が多いことは、種々の PTSD 治療ガイドラインで Bz が非推奨となっていることと矛盾しており、今後のガイドライン遵守が求められる結果となった。今回の結果は、うつ病併存が PTSD 症状の重症度を示すという知見 (Elhai 2011; Gros 2012) と一致していた。PTSD の日常診療においてうつ病の併存、重症度判定は治療方針を決定する上でも重要であると考えた。